



東北マリンサイエンス拠点形成事業
— 海洋生態系の調査研究 —

公式サイト <http://www.i-teams.jp/>

課題1 漁場環境の変化プロセスの解明

東北大学

<http://www.agri.tohoku.ac.jp/teams/>

委託機関

東京海洋大学 (北里大学)

課題2 海洋生態系変動メカニズムの解明

東京大学大気海洋研究所

<http://teams.aori.u-tokyo.ac.jp/>

委託機関

(岩手大学・東京海洋大学)

課題3 沖合底層生態系の変動メカニズムの解明

課題4 東北マリンサイエンス拠点データ共有・公開機能の整備・運用

海洋研究開発機構

<http://www.jamstec.go.jp/teams/>

委託機関

東海大学



文部科学省補助事業

東北マリンサイエンス拠点形成事業

「海洋生態系の調査研究」

公開シンポジウム

これからの 東北マリン サイエンス



2016年10月12日(水)
東海大学校友会館 (阿蘇の間)

主催 東北マリンサイエンス拠点形成事業 (東北大学・東京大学大気海洋研究所・海洋研究開発機構)

後援 復興庁、岩手県、宮城県

これからの東北マリンサイエンス

プログラム

13:00~13:05	開会挨拶	海洋研究開発機構 研究担当理事	白山 義久
13:05~13:10	来賓挨拶	文部科学大臣政務官	田野瀬 太道
■ シンポジウム これまでの TEAMS の取組み			
13:10~13:30	これまでの TEAMS の取組み	TEAMS 代表(東北大学大学院農学研究科教授)	木島 明博
■ これからの TEAMS の取組み			
13:30~13:40	海洋環境・生物モニタリング調査	TEAMS 海洋環境・生物モニタリング調査委員長(東京大学大気海洋研究所教授)	木暮 一啓
13:40~13:50	海洋生態系モデルの構築	TEAMS 海洋生態系モデル構築委員長(海洋研究開発機構上席研究員)	藤倉 克則
13:50~14:00	漁業復興支援	TEAMS 漁業復興支援委員長(東北大学大学院農学研究科教授)	原 素之
14:00~14:10	データマネジメント	TEAMS データマネジメント委員長(海洋研究開発機構技術主幹)	園田 朗
14:10~14:20	アウトリーチの展開	TEAMS 広報委員長(東京海洋大学特任教授)	北里 洋
14:20~14:30	休憩		
■ TEAMS の取組みを効果的に実施するために：パネルディスカッション			
14:30~16:30	モデレーター	TEAMS 代表(東北大学大学院農学研究科教授)	木島 明博
	パネリスト	文部科学省研究開発局海洋地球課長 東北マリンサイエンス拠点委員会主査 水産研究・教育機構東北水産研究所長 岩手県政策地域部 科学 ILC 推進室長 岩手県水産技術センター所長 宮城県水産技術総合センター副所長 TEAMS 海洋環境・生物モニタリング調査委員長(東京大学大気海洋研究所教授) TEAMS 海洋生態系モデル構築委員長(海洋研究開発機構上席研究員) TEAMS 漁業復興支援委員長(東北大学大学院農学研究科教授) TEAMS データマネジメント委員長(海洋研究開発機構技術主幹) TEAMS 広報委員長(東京海洋大学特任教授)	林 孝浩 田中 克 秋山 秀樹 佐々木 淳 煙山 彰 永島 宏 木暮 一啓 藤倉 克則 原 素之 園田 朗 北里 洋

登壇者

木島 明博 (きじま あきひろ)



東北大学大学院農学研究科教授。東北マリンサイエンス拠点形成事業代表機関代表研究者。女川町復興計画策定委員会委員。元東北大学副学長、高等教育開発推進センター長ほか。東北大学大学院農学研究科博士後期課程修了、農学博士。専門は海洋生物学、水族遺伝育種学、水族保全遺伝学。科学的知見に基づく環境融和型新漁業・水産業の振興、海洋教育・学習の普及による沿岸市町村の復興・新生を目指している。

木暮 一啓 (こぐれ かずひろ)



東京大学大気海洋研究所教授。東北マリンサイエンス拠点形成事業副代表機関代表研究者、海洋環境・生物モニタリング調査委員長。東京大学大気海洋研究所・地球表層圏変動研究センター長。東京大学農学系研究科博士課程修了、農学博士。専門は海洋微生物学、水産学。主な著書に「海洋の生物の連鎖—生命は海でどう連鎖しているか」(東海大学出版会)など多数。

藤倉 克則 (ふじくら かつのり)



海洋研究開発機構上席研究員。東北マリンサイエンス拠点形成事業副代表機関代表研究者、海洋生態系モデル構築委員長。東北マリンサイエンス拠点形成事業で「沖合底層生態系の変動メカニズムの解明」を担当。専門は深海生物学。東京水産大学(現東京海洋大学)大学院修士課程修了。学術博士(水産学)。主な著書に「潜水調査船が観た深海生物—深海生物研究の現在」(東海大学出版会)など。

原 素之 (はら もとゆき)



東北大学大学院農学研究科教授。東北マリンサイエンス拠点形成事業 漁業復興支援委員長。東北マリンサイエンス拠点形成事業では「漁場環境の変化プロセスの解明」を担当。専門は水産増養殖学・遺伝育種学。東北大学大学院農学研究科修士課程修了。農学博士。主な著書に「水産資源の増殖と保全—アワビの集団構造と放流集団の再生産」(成山堂書店)など。

文部科学省補助事業 東北マリンサイエンス拠点形成事業「海洋生態系の調査研究」公開シンポジウム

登壇者

園田 朗 (そのだ あきら)



海洋研究開発機構技術主幹。東北マリンサイエンス拠点形成事業 データマネジメント委員長。東北マリンサイエンス拠点形成事業では「データから情報へ 科学情報を社会へ」をモットーに、「データ共有・公開機能の整備・運用」を担当。東海大学大学院 海洋学研究科 海洋科学専攻を修了。修士(理学)。これまで、各種データ公開システムの構築・運用に携わる。主なシステムとしては、深海映像・画像アーカイブス「J-EDI」や、海洋の生物地理情報のデータシステム「BISMaL」など。

林 孝浩 (はやし たかひろ)



文部科学省研究開発局海洋地球課長。平成 4 年に、東京工業大学大学院理工学研究科修士課程を修了し、科学技術庁入庁。長年、科学技術行政に携わり、研究振興局情報課計算科学技術推進室長、科学技術・学術政策局科学技術・学術戦略官などを歴任。平成 28 年より現職。

秋山 秀樹 (あきやま ひでき)



国立研究開発法人水産研究・教育機構東北水産研究所長。東北マリンサイエンス拠点委員会委員。専門は水産海洋学。東海大学海洋学部卒業。博士(理学)。水産研究・教育機構の震災復興地推進本部長として、水産庁及び東北太平洋岸の各県と連携し、被災した生産現場の復興に貢献する調査研究を推進しています。

煙山 彰 (けむやま あきら)



岩手県水産技術センター所長。東京水産大学増殖学科(現東京海洋大学)卒。岩手県栽培漁業センター(大船渡)宮古分場(種市)に通算 14 年勤務し、主にアワビ人工種苗の放流に関する研究に従事。その後岩手県内水面水産技術センターに通算 11 年勤務、魚病・アユの遺伝的多様性の研究に従事。現在は岩手県水産技術センターに勤務し通算 8 年目。副所長の時、東日本大震災で被災し、屋上から津波の来襲を見る。その他、行政に 4 年従事。

北里 洋 (きたざと ひろし)



東京海洋大学特任教授。東北マリンサイエンス拠点形成事業 広報委員長。東北大学大学院理学研究科博士課程修了、理学博士。専門は、地球生命科学、深海生物学、海洋微古生物学、地質学。主な著書に「古生物の科学」(朝倉書店)、「地球生物学」(東京大学出版会)、「古生物学事典(第二版)」(朝倉書店)、「なぜ日本の海は豊かなのか」(岩波書店)、「深海、もうひとつの宇宙」(岩波書店)など多数。

田中 克 (たなか まさる)



京都大学名誉教授・舞根森里海研究所長。東北マリンサイエンス拠点形成事業主査。琵琶湖のそばに生まれ、京都大学農学部水産学科で稚魚の研究に進む。三陸気仙沼と九州有明海において、水際の生き物とその再生の道を探る。「いのちのふるさと海と生きる」社会の創生を目指し、社会運動「森は海の恋人」と統合学問「森里海連環学」の協同に取り組む。

佐々木 淳 (ささき じゅん)



岩手県政策地域部科学 ILC 推進室室長。昭和 58 年、岩手県入庁。科学技術庁(現文部科学省)派遣、商工労働部科学・ものづくり振興課総括課長、岩手県東南広域振興局副局長、首席 ILC 推進監などを経て、平成 27 年より現職。岩手県花巻市出身。

永島 宏 (ながしま ひろし)



宮城県水産技術総合センター副所長兼企画情報部長。東北マリンサイエンス拠点委員会及び海洋生態系小委員会委員。管理職になる前は、仙台湾のイカナゴ資源管理や科学計量魚探による水産資源の生態調査に従事。気仙沼水産試験場で執務中に東日本大震災が発生。被災漁場調査に従事後、内水面水産試験場、気仙沼水産試験場を経て現職。左写真は 2011 年、仮設庁舎で被災漁場調査に従事していた時のポートレート。